

株式会社アシックス・スポーツ工学研究所の見学・講演会への参加

島根大学 人間科学部身体活動・健康科学コース 高橋 哲也

日時： 令和元年(2019)年11月22日(金) 13:30~16:00

会場： 株式会社アシックス・スポーツ工学研究所

人間科学部学生20名(2回生9名、3回生11名)と共に、株式会社アシックス・スポーツ工学研究所の見学・講演会に参加しました。これは、(一社)日本繊維製品消費科学会 中・四国支部会の主催によるもので、一般参加者と併に参加したものです。株式会社アシックスのご協力によって実施されました。島根大学以外にも、広島大学、京都工芸繊維大学などの学生や、複数の大学教員、民間企業、国立スポーツ科学センターの方々も、多数参加されていました。

アシックス・スポーツ工学研究所では、アスリートのみならず世界中の人々の可能性を最大限に引き出す製品作りを目指して、人間の身体や動きの分析をもとに最先端の材料や構造の研究が行われていました。また、生産技術、製品、素材などの分析評価の研究も行われていました。



株式会社アシックスの建屋



スポーツ工学研究所の入り口

見学会では、2グループに分かれて、製品を生み出す研究の現場を目にすることができました。また、バイオメカニクス技術を用いた歩行姿勢測定システムを体験することもできました。この歩行姿勢測定システムは、センサーに向かって歩くだけで、「歩行速度」「歩幅」「胸腰部の上下動」「足の上り角度」などの様々な項目を測定できるものでした。身体全体の歩行姿勢を年齢と性別に応じた基準で点数化できる興味深いものでした。また、日頃触れることのないスポーツシューズの様々なミッドソールに触れたりすることもできました。スポーツウェアの機能を計測するのに欠かせない人工気象室にも入室でき、その室内に設置された大型のトレッドミルや高性能のサーマルマネキンも目にすることもできました。これらは、大学の講義では実物を見せることのできない貴重なものです。

また、先のラグビーワールドカップ日本大会で大活躍だった日本代表のリーチ・マイケル主将のラグビースシューズやオーストラリアナショナルチームのユニフォーム、ジョコビッチ選手のテニスシューズや大リーグの大谷翔平選手のスパイク、松山英樹プロのゴルフシューズ、石川佳純選手の卓球シューズなど、多数のトップアスリートのシューズを実際に手に取って間近で見ることができ、有意義な見学会となりました。



バイオメカニクスに基づく動作分析

講演では、スポーツ工学研究所の原野健一所長（執行役員）より、「スポーツギアの高機能化」についてのお話をいただきました。研究所長は理系出身の技術者で、シューズの材料開発に深く携わった方です。ソールには、耐摩耗性、衝撃吸収能力、走行安定性、屈曲性（曲がりやすさ）などの多機能が要求されます。これらの機能は、互いに相反するものが多いとのこと。それらを両立させることが重要であり、最先端のセルロスナノファイバー技術を用いて多孔質でありながら耐久性にも優れた材料の開発をされているとのことでした。

株式会社アシックスは、オニツカ株式会社とスポーツウェアを手がける株式会社ジイティオ、ニットウェアを手がけるジェレンク株式会社の3社が対等合併し、世界制覇を目指して総合スポーツ用品メーカーを発足されたとのこと。その際、「もし神に祈るならば、健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ」というラテン語"Anima Sana In corpore Sano"の頭文字をとって、社名を「ASICS」とされたそうです。まさに、その社名通りの開発精神が息づいているものと感じました。学生も、企業の研究所を見学することによって、大学の講義だけでは得ることのできない大きな収穫があったものと感じました。

業務のお忙しい中、見学・講演会の開催にご協力を賜り、ご講演ならびに丁寧な解説を含めた見学会をいただきました株式会社アシックス・スポーツ工学研究所の皆様へ深く感謝したいと思います。

【キーワード：アシックス、スポーツ工学、スポーツシューズ、スポーツウェア】



スポーツ工学研究所にて参加者の記念撮影